

千葉県の商圈（平成18年度消費者購買動向調査結果の概要）について

平成19年5月7日
 商工労働部経営支援課
 電話 043-223-2824

県内居住者の衣料品、日用品、食料品等17品目の購買行動の実態を把握するとともに、県内商圈を明らかにするために昭和43年度から実施している「千葉県の商圈」について、平成18年度の消費者購買動向調査の結果がまとまった。

前回調査(平成13年度)でも見られたところであるが、各地への新たな大型商業施設の出店もあり、商圈都市の分散化が一層進んでいると思われる。

※商圈都市とは、一定以上の地元購買率と他市町村からの吸引力を有する都市をいう。

1 調査内容

- ・ 昭和43年より「千葉県の商圈」として3年～5年毎（過去9回実施）に実施
- ・ 調査対象：県内の公立中学校1、2年生を有する世帯に対するアンケート方式
- ・ 調査時点：平成18年10月
- ・ 調査票配布数：20,536票 調査票回収数：12,769票（回収率 62.2%）
- ・ 調査項目：商品別の主な購買地（市町村別）、利用する店舗形態、大型ショッピングセンターの利用状況等

2 調査結果の概要

I 商圈構造（調査品目のうち衣料品の主たる購買地から分析）

(1) 商圈都市の状況（平成13年及び18年）

	商業中心都市		準商業中心都市		単独商圈都市	
	平成13年	平成18年	平成13年	平成18年	平成13年	平成18年
変化なし	千葉市 成田市 柏市 茂原市 旭市	千葉市 成田市 柏市 茂原市 旭市	市原市 木更津市 鴨川市	市原市 木更津市 鴨川市	佐倉市 我孫子市 市川市 浦安市 銚子市	佐倉市 我孫子市 市川市 浦安市 銚子市
変化あり	船橋市 館山市 東金市		松戸市 野田市 佐原市	船橋市 八千代市 印西市 匝瑳市 館山市 東金市	習志野市 八千代市	松戸市 野田市
	8市	5市	6市	9市	7市	7市

※「変化あり」の下段は、市町村合併により変化した市町村

商 圏	当該市町村の顧客吸引力が及ぶ範囲（消費者の日常購買活動がある程度の範囲を持ち、購買頻度が高い商品として、衣料品に対する地元購買率等を分析して設定）	
商 圏 都 市	商業中心都市	地元購買率70%以上、他5市町村以上から10%以上を吸引している 地元購買率80%以上、他3市町村以上から10%以上を吸引している
	準商業中心都市	地元購買率60%以上、他2市町村以上から10%以上を吸引している 地元購買率70%以上、他1市町村以上から10%以上を吸引している
	単独商圈都市	地元購買率60%以上、外部特定都市への流出率が20%未満

(2) 商圏都市の変化

1) 商業中心都市 [8市→5市 3減]

船橋、館山、東金の3市が商業中心都市から準商業中心都市に移行した。船橋市は、地元購買率の減少が主な要因であり、館山市と東金市は、周辺町村が合併した結果として吸引市町村数が減少したことによる変化である。

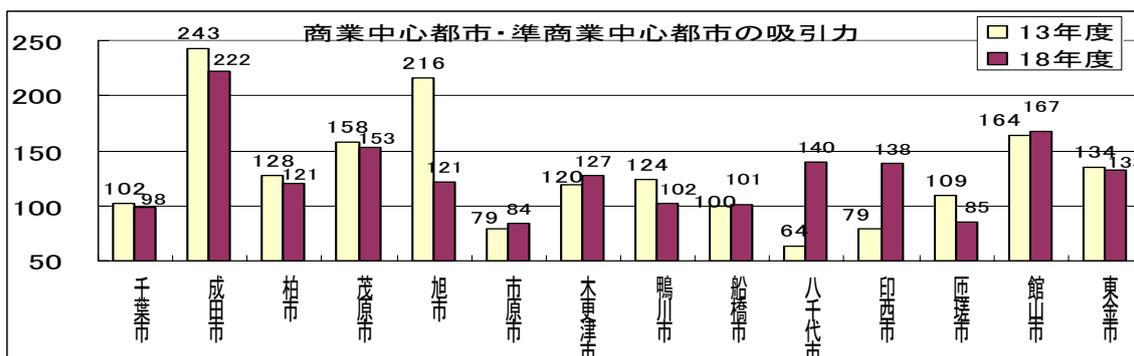
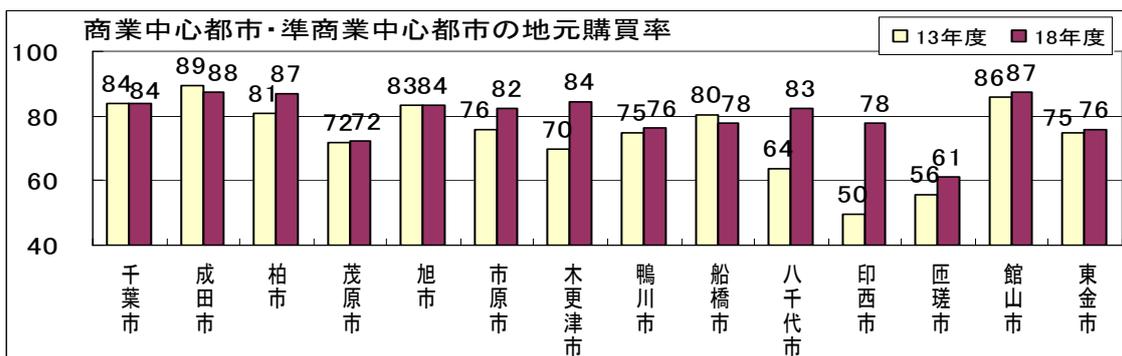
2) 準商業中心都市 [6市→9市 6増3減]

八千代、印西、匝瑳の3市が地元購買率の増加、吸引市町村数の増加により新たに準商業中心都市になった。これに1)の3市を加えた6市が増加した。

一方、松戸、野田の2市が吸引市町村の減少により準商業中心都市から単独商圏都市に移行した。なお、野田市は関宿町を合併したことによる変化である。また、佐原市(現香取市)が、周辺町村を合併したこと等により地元購買率が低下したため、商圏都市から外れた。

(3) 地元購買率、吸引力の変化 (商業中心都市及び準商業中心都市)

- ・ 地元購買率、吸引力とも八千代市、印西市において大幅に上昇した。これは、大型店の出店によるものと考えられる。
- ・ 旭市、成田市を始めとする合併市町村の吸引力は、行政人口が増加したため、結果として低下している。



吸引力	<p>商圏都市が商圏内から吸引している人口（吸引人口）が当該商圏都市の行政人口の何パーセントになるかという指数</p> $\text{吸引力} = \frac{\text{吸引人口}}{\text{商圏都市の行政人口}} \times 100$
吸引人口	$\text{吸引人口} = \text{商圏都市の行政人口} \times \text{地元購買率} + \sum (\text{商圏内の各市町村の行政人口} \times \text{商圏都市への流出率})$

(4) 県外への流出状況

1) 東京都への流出

・前回調査(平成13年)と比べ、減少傾向にあり、10%以上吸引されている市町村は1市減って浦安市のみ(13.3%)となった。

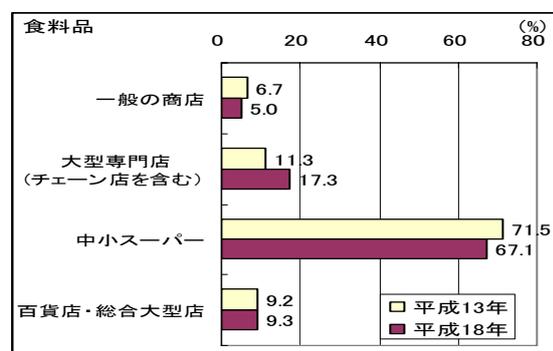
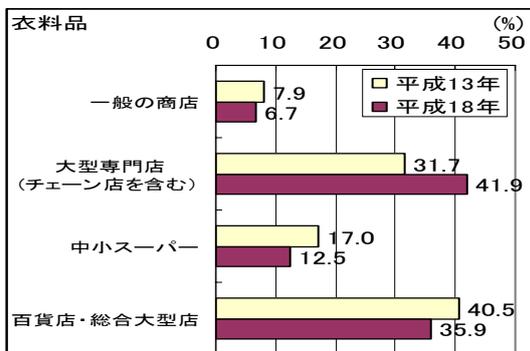
2) 茨城県への流出

・茨城県に10%以上吸引されている市町村は、東庄町(21.7%)、香取市(14.1%)の2市町である。旧市町村ではばらつきがあるが、流出は横ばい状況と言える。

II 消費行動

(1) 利用店舗

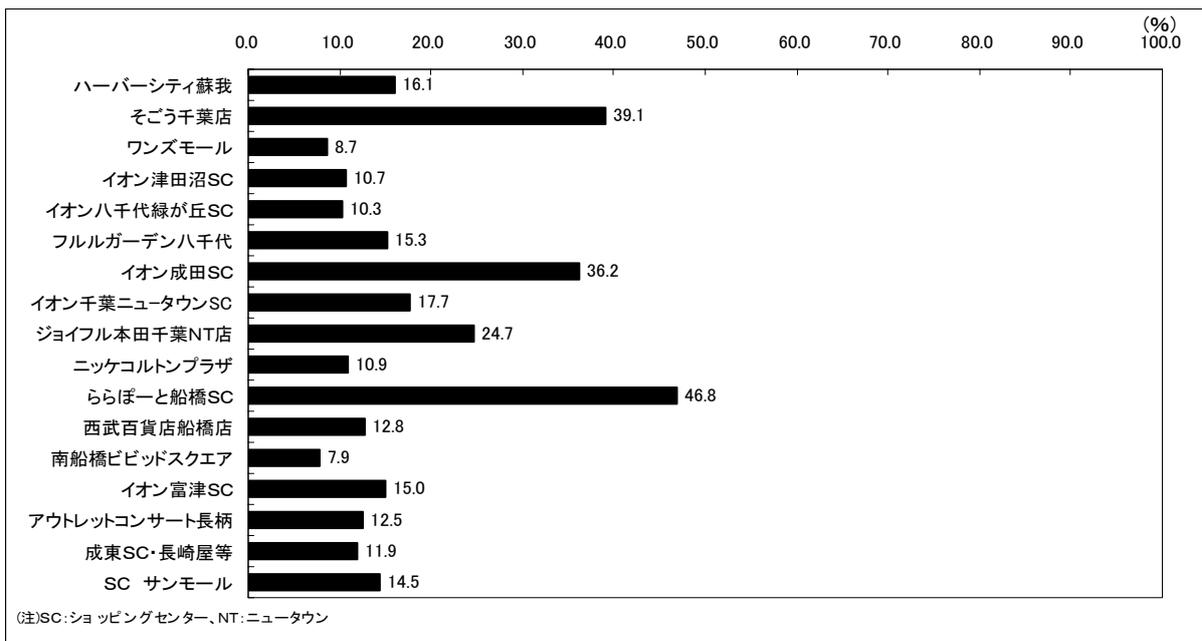
・衣料品では大型専門店(チェーン店を含む)、食料品では中小スーパーの利用が最も多くなっている。伸び率では、いずれも大型専門店の利用率が大きく増加している。



(2) 大型ショッピングセンター・ショッピングモールの利用状況

年数回程度以上利用する割合(品目の特定はなし)

ららぽーと船橋SC 46.8% そごう千葉店 39.1% イオン成田SC 36.2%



大型店は、店舗面積3万㎡以上の店舗を基本とし、該当店舗がない地域では最大の店舗面積の店舗を選んだ。